

”和牛の聖地”純血種「但馬牛」のルーツ 廃村「熱田集落」



但馬牛のふるさと「あつた蔓」ゆかりの地

熱田集落で最初に牛を飼い始めたと言われる民家跡。但馬牛の血統は、その基礎となった牛「あつ」と、牛たちが暮らしていた熱田村にちなんで「あつた蔓」と名付けられた。現在、全国の黒毛和牛の99.9%※1がその子孫と判明した名牛「田尻号」は、この「あつた蔓」の中から生まれ、その血統が現在に続いている。



標高700mの豪雪地として知られる香美町小代区の秘境に佇む「熱田集落跡」。神戸牛や松坂牛の素牛として知られる「但馬牛(うし)」の純血種が残った”和牛の聖地”として語り継がれ、約30年にわたり、都市部からの自然体験教室を受け入れていた、農泊のさきがけとなる古民家が残っています。映画のワンシーンを切り取ったような昭和レトロな旧小南小学校熱田分校や、長年にわたりこの集落を見守ってきた熱田神社跡など、過去にタイムスリップしたかのような風景がゆっくりと流れる時間へと誘います。令和5年3月、その優れた景観と構成されるストーリー性が評価され、兵庫県の景観遺産として登録されました。

旧小南小学校熱田分校

昭和16年開校。現校舎は昭和34年に改築、移転されたもの。当時は公衆電話が設置されるなど集落を支える施設でもあった。昭和レトロな造りから過去にタイムスリップしたような錯覚に陥り、映画やアニメに登場しそうな外観から人気の撮影スポットとなっている。



鎮魂碑

1968年(昭和43年)、主婦5人が買い物からの帰宅途中に雪崩に巻き込まれる事故により亡くなられた方の霊を慰めるために建立された地蔵尊。越冬住宅へ建設や集落の集団移転のきっかけとなった痛ましい事故の記憶を今に伝えている。



熱田神社跡

熱田集落は、約800年前、三種の神器の1つである草薙剣(くさなぎのつるぎ)を祀る尾張国(現愛知県)の熱田神社に仕えていた田野氏が家臣を連れて移住してきたことが起源とされ、熱田神社から分祀された”熱田神社”が、長きにわたりこの集落を見守ってきたが、集落の廃止とともに新屋区内の神社に合祀された。かつて神社を移転しようと運び出そうとした人の足が動かなくなり、移転を断念したという話や、神社付近の杉が大雪で倒れることが度々あるが、一度も神社に当たったことがないという、熱田神社にまつわる話が今も語り継がれている。



観音堂跡

善光寺(長野県長野市)から勧請(かんじょう)されたとも云われる薬師如来像が奉られていたが、集落の廃止により現在は牛玉山光明寺(香美町小代区平野)に移され安置されている。薬師如来は病気を治して衣食住を満ち、健康長寿など、生きている間に願いを叶え、現世にやすらぎを与えてくれると言われることから、住民の拠りどころとなっていた。

牛と共に過ごしていた民家(自然体験教室受入施設)

2010年までの約30年にわたり、自然体験教室として京阪神から子供たちを受け入れていた民家。民家に併設された「まや」と呼ばれる牛の寝床や五右衛門風呂などを観ることができる。ここで自然を体験した子どもたちは、やがて大人になってからも「熱田」をふるさととして親しみ、度々この地を訪れている。



"熱田"の記憶「田尻号と田尻松蔵氏」

「あつた蔓」の流れを汲む名牛"田尻号"(右)と生産者の田尻松蔵氏。田尻松蔵氏は田尻号を生産した功績が認められ、昭和30年に黄綬褒章を受賞した。

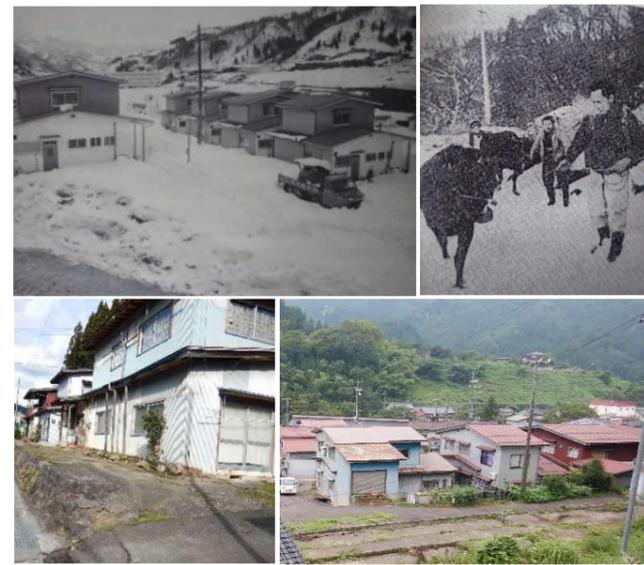
文明開化の時代に外国種との交配が失敗した但馬牛でしたが、終戦後、元の素晴らしい但馬牛を取り戻そうと、新しい血統の基礎作りが始まり、この時、小代区でもっとも山深い標高700mの高地、すなわち熱田に外国種との交配を免れた純粋な但馬牛(小代牛)が残っていたことがわかりました。

熱田に残っていた但馬牛の血統は、その基礎となった牛「あつ」と、牛たちが暮らしていた『熱田村』にちなんで『あつた蔓』と名付けられ、これが但馬牛の聖地と言われる所以となった。



"熱田"の記憶「自然体験教室の経験者」

熱田での自然体験の経験者は小中学生併せて延べ約900人にのぼり、母子牛と自炊で過ごす別天地での感動的な体験を辿ったり、教室を受け入れた故田淵徳左衛門氏を慕う卒業生が県外から訪れるなど、熱田を第二のふるさととして愛してやまない。



熱田越冬住宅と自治会の活動休止

昭和43年に買い物から帰る途中の主婦5人が雪崩に巻き込まれて1名が亡くなるという痛ましい事故があったことから、積雪の多い冬季間を過ごす"越冬住宅"が、昭和44年10月に小代区の中心部に近い野間谷区に建設された。

住み慣れた熱田からの移転となったため反対の意見もあったが、昭和44年12月25日に、当時の全住民9世帯、約50人が集団移住した。その後、高齢化や他地区への移住から世帯数が減少し、令和元年には1世帯のみとなったため、令和2年3月31日をもって自治会を無期限の活動休止とし、事実上の廃村となった。



"熱田"の語り部「小代ガイドクラブ」

香美町小代の魅力を伝えるために地元住民らで結成された「小代ガイドクラブ」。畜産農家の協力も得ながら「和牛のふるさと」として、より多くの方に但馬ビーフのルーツを辿るツアーなどのガイド活動を行っている。

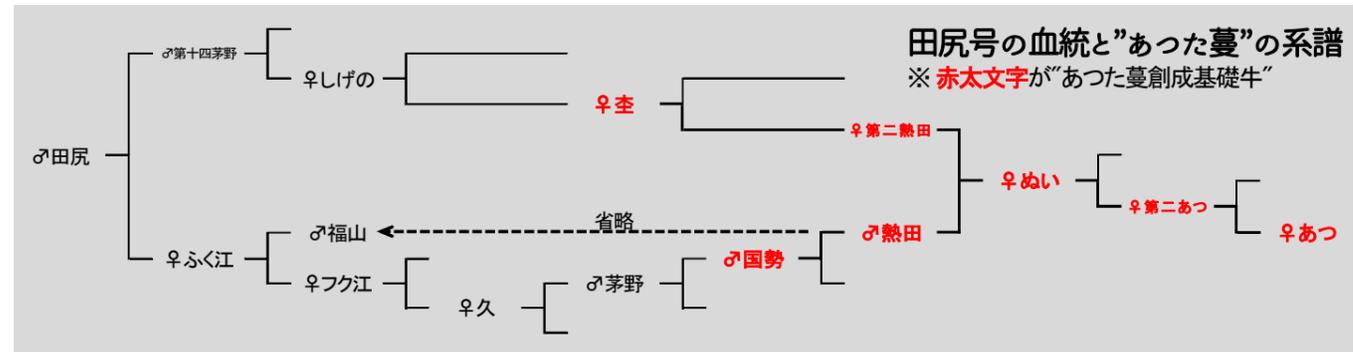
お問い合わせ／小代ガイドクラブ事務局
(香美町小代観光協会内)
☎ 0796-97-2250(定休日:火曜)

"熱田"の語り部「吉田真佐子氏」

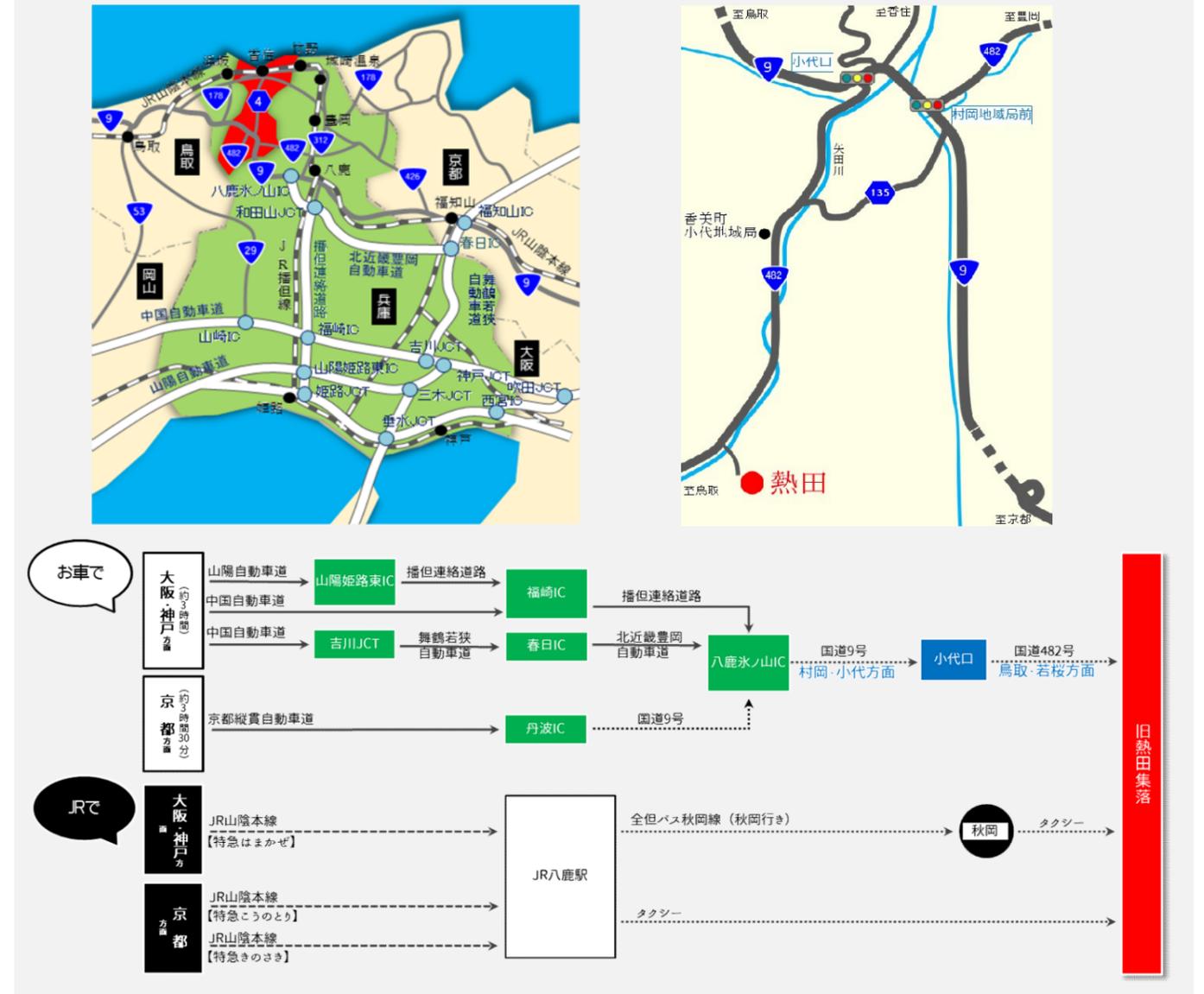
地元小代に居住する熱田出身の吉田真佐子氏。自然体験教室を受け入れた故田淵徳左衛門氏の長女であり、「熱田」を知り尽くした語り部として地域内外を問わずその魅力を伝えている。



お問い合わせ／香美町小代地域局
☎ 0796-97-3111



アクセスマップ



景観遺産・・・兵庫県が令和3年に制度化し「地域特有の歴史的な背景を有する景観」などを有する土地や区域、建造物などを「景観遺産」として登録する制度。身近な景観の意義や魅力を県民に広く周知することで、ふるさと意識を啓発し、優れた景観の良さを発信するとともに地域の活性化につなげることを目的としています。

編集・発行
香美町小代地域局
〒667-1503 兵庫県美方郡香美町小代区大谷563-1
TEL:0796-97-3111(代表) FAX:0796-97-2907